

です。

中上——私の所では七割位は天日にして
います。

どうして普及しないんでしょうね。

宮島——この前、大蔵省の方は個人の財
産形成には国の金は出せないみたいなの
を聞いていましたが、県では何か考え
ておられませんか。

山下——助成等については考えていませ
ん。

球磨郡の相良村役場でソーラーシステ
ムを取り回していますが、これについて
は国の方でもいろいろ研究がなされてい
るようです。まだ結論がでてないよう
ですが、研究成果等をふまえながら、県と
しても公営住宅等について考えていく
きではないかという意見がでておりま
す。

宮島——太陽温水器はメーカーが非常に
熱心で品質も、効率もよくなってきてい
ます。

これを普及させると自動的に省エネに
なりますし、多少補助金を出しても、長
い目で見れば省資源になりますよ。

ゴミ焼却の熱も利用できそうですね。
中上——イ草の乾燥にしても、ハウスで
温めた空気でイ草を乾燥するというのを
みんな考えているようです。

友住——それから主婦としては、太陽熱
を自分なりに利用するという方法です
ね。たとえばフロンをほすということ、
そういう生活防衛も主婦には必要でしょ
うね。

ないかと考えなければいけない時代では
ないでしょうか。

有田——私の近所では子供が学校に登校
するのに車に乗せてもらって行くんで
す。そうなるのが我が家も車を買わなくて
は恥ずかしいという観念があるんです。
車が便利だから生産の道具ではないわけ
です。車を持たないことに恥ずかしさ
が伴っているんです。

友住——私は節約に対しての恥ずかしさ
はもっていません。やはり胸をはって教
えてやらないと子供は惨めに思いますか
らね。

有田——節約は惨めさではないですよ。
車で行くのと歩いて行くのと学校へ行く
ばいいんですから。むしろ歩く方が自分
で努力する癖をつけるんだけれども、や
はり社会全般には恥ずかしいという観念
がある。

これをなおすには教育しかありませ
ん。

この点、ドイツ人というのは非常にし
っかりしていて、無駄金は一切出さんと
いう考え方で。

日本人の民族性というか、たくさん使
わないと人間的にだめだみたいな意識が
出てきますからね。
だから石油がなくなると、いろいろな
物がなくなる。逆にいうと石油がもう少
し上がれば物もなくなる。そうするとパ
ランスがとれて恥ずかしさの構造が変わ
ってくると思います。しかしそうだった

うね。

宮島——そうなるとう電気製品が売れなく
なって私たちは困ります。だからこれか
らは省資源型の電気製品というのが課題
でしょうね。

山下——今年の五月エネルギー使用の合
理化に関する法律、いわゆる省エネ法
(十月一日から施行)が成立し、熱効率
の高い電気器具等を製造していくように
指導していくということですから、だん
だんそういう省エネ型の電気器具も出ま
わることになると思います。

わたしたちは毎日の生活で、
どのくらいのエネルギーを
使っているのでしょうか? (石油換算)

親子4人の標準世帯
世帯主40歳、妻35歳、長男12歳、長女8歳
木造1戸建て住宅3LDK(25㎡)住居
電気消費量/1台7ヶ月約400万円



子供たちへ省エネ教育を

有田——機械メーカーが今一番力をいれ
ているのが省エネ設備、省エネ機械です
よ。

やはりこの問題は、根本的には将来人
間がどう考え、どうするかです。もし
てそれをどう定着させるか。
宮島——人間は場当たりで自分勝手なもの
ですからね。

中上——私の家に農業研修生が来ますけ
れども今の子供たちは食事の時によく食
べ残します。

一方では国全体で余っているものもあ
り、一方で石油みたいに不足している
ものもあります。そういう中で石油だ
け節約しろといってもご飯を食べ残すよ
うな人達にはどうもね。やはり根本的に
改める必要があると思います。

宮島——昔は学校、家庭などいろいろな
所で節約ということを教えられましたか
らね。

今の子供は豊かな時代を過してきてい
るものだから。
友住——これからは母親の責任がでく
ると思います。省資源というのは将来も
ずっと続くことだし、そうなるとう教育
の場しかありません。

実は私の息子のことですけれど、突っ
掛け草履のひもを切ってしまったので、
物を節約するというか、大事にする経験
をさせるチャンスだと思って、私のハン
ドバックを利用して作らせたわけです。
そうしたら僕が作ったという友達に自
慢するんですよ。

お金を出せば買えるんだけど、今
自分の手もとにあるものを活かす方法

ら経済的には困るんですがね。
友住——そうなるとう省エネ、節約とい
うのは人間性の問題ということですね。

有田——私は個人よりも民族性の問題だ
と思います。しかしそれを急に変えるの
も現実的には困難です。

友住——それと年代の違いによる節約の
違いもあります。

有田——終戦後我々は芋を食っても恥ず
かしくなかったでしょう。やはりその時
の節約の構造が、必要性によって違っ
てくるわけですよ。

学校の副読本あたりで教えたらどうで
しょうか。日本の資源はこうなんだとい
うことを。

友住——それは絶対必要ですね。小学
ぐらいからやらないと大きくなってから
ではだめです。



有田——今のヤング連中に車に乗るなど
いってただめだからね。
山下——資源が有限であるということ
が、四十八年の石油ショックからいわれ
始め、それが少し落ちてきたら少し
みなさんの気持ちの引き締まるんでき

た感じですよ。

やはり今から先は真剣に取り組まな
ければならない時期だと思えます。

先程五割節約は甘いというお話でし
たが、本年度は二億八千万円の原油の輸入
計画になっていまして、その五割、千
五百万円を節約しようということですよ。
これは日本全国でみると二十日分の消費
量です。

現在、我が国の石油備蓄が民間備蓄で
八十四日分です。だから五割の節約で二
十日分が節約できるとなると、そう甘い
数字ではないわけです。

この五割節約の実績が現在のところ大
休七〇〜八〇%達成されています。冷房
関係が七五%、窓際の消灯が六〇%位で
すね。

宮島——長期的な展望でみれば、本当は
大変なことですけど、やはり人間とい
うのは目前にこない切迫感がないです
ね。

友住——それから情報の与え方に問題が
あるようですよ。何年計画でやって今年
は五割だというような情報を出して頂き
たいですね。

山下——一般的に今年だけが、こういう
状態だから五割節約が適当かな、という
感じをもっていらっしやるかと思いま
す。

我々としてもその辺のPRが不足して
いると思います。世界的に考えているの
も今年だけというのでなく、漸次省エネ

率を高めていかななくてはならない状態
ですから、周知徹底するようPRする必要
があります。

宮島——今の消費構造というのは、石油
を基準にしてつくられているわけです。

ところが構造を変えないと、今のまま
ではどうしようもない。例えば家庭で湯
をわかすにしても構造をかえないと、風
呂は三日に一回なんてことになる。家庭
電化にしても今の電力が基準ですから、
役立たなくなってしまうわけです。

有田——設備が固定化してしまいま
すね。

中上——農家の方は、そういう考え方を
取り入れているようですよ。風呂にして
も薪とか、もみ殻を利用できる構造に
なっています。

山下——都市生活者にしても、そういう
意識があればね。薪なんかいっぱいある
わけで、またそれを使うことで農村林業
地帯も潤ってきますね。

要するに今から先は、私たちの生活様
式、意識というものを直していかな
いとだめでしょうね。

けい光灯の電力は
白熱灯の約半分

